

5年2組「特別の教科 道徳」学習指導略案

1 主題名 「公正・公平な社会をめぐって」C-1(13) 公正・公平、社会正義

2 教材名 「だれもが幸せになれる社会を」

(出典：光村図書「道徳5 きみがいちばんひかるとき」)

3 ねらいとする価値について

人は、差別や偏見、憎む心を持ち、公正・公平な社会の姿を思い描いていても、なかなかそれを実現できない。それは人の心が、自分と異なる考え方や少数派の立場に対して、偏った見方をしてしまいがちな弱さをもっているためである。

しかし、集団や社会において、誰にでも分け隔てなく接することを心がけるのは、いじめの問題を解決していくためにも不可欠な態度と言える。そこで、誰もがかけがえのない生命をもつ尊い存在であるという認識を関連させながら、偏見や差別を許さない意識を育みたい。

4 本時の展開

○ねらい ハンセン病の歴史や、ハンセン病患者であるきみ江さんの姿を通して、誰もが幸せになれる社会とはどんなものか考えさせ、社会的な差別や偏見と向き合い、公正・公平な態度で行動し、社会正義の実現に努めようとする心情を育てる。

	学習活動（○発問、☆中心発問）と児童の反応（・）	◇指導上の留意点 ※評価
導 入	<p>1. 「幸せ」について話し合う。</p> <p>○皆さんが思う「幸せ」とは、どんなものですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康に生活できること。 ・好きなことをしているとき。 	<p>◇自分の満足感を挙げる児童の意見も受け入れながら、「だれもが幸せになれる社会」について考えていくことを伝える。</p>
	<p>めあて 誰もが幸せになれる社会とは、どのようなものか考えよう。</p>	
展 開	<p>2. 「だれもが幸せになれる社会を」を読んで話し合う。</p> <p>○元患者さんたちの宿泊を断ったホテルの、どんな考えが、間違っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元患者さんたちは他の客と違うという考え。 ・元患者さんたちが泊まると、他の客が迷惑に感じるだろうという考え。 <p>○きみ江さんは、どんな思いで「人が同じあやまちをくり返さないように」と言っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別によって苦しくつらい思いをした人がいたことを、絶対に忘れないでほしい。 ・自分たち患者や家族と同じ苦しみを味わう人が、もう出てくることのないようにしてほしい。 ・正しい知識や情報がないと偏見や差別に苦しむ人が出てしまう。 <p>☆「ハンセン病問題」を通して「だれもが幸せになれる社会」とは、どのようなものなのか、また、そのような社会を実現するためには、どんなことが必要なのか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気や障がいにかかわらず、誰もがやりたいことをできる社会。 ・人と人とが傷つけ合うことのない社会。 	<p>◇ハンセン病についての知識をきちんと押さえる。そのうえで、ホテルの宿泊拒否が誤った考え方によるものであることを理解させる。</p> <p>◇差別を受けてきた当事者、その家族、差別をしてきた人など、さまざまな立場を意識させながら、きみ江さんの思いを深められるようにする。</p> <p>◇病気や障がいのある人に対する偏見に向き合って考えられるようにする。</p> <p>※「だれもが幸せになれる社会」について、自分の考えをワークシートにまとめている。</p>
終 末	<p>3. 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇今回の学習に関連した体験談を紹介する。</p>